

付 日加公使交換関係

13 昭和3年1月10日

田中外務大臣 会談
在本邦テイリ―英国大使

日加公使交換に関するカナダ側希望につき駐日 英国大使の申し入れ

付 記 昭和二年一月一〇日付在本邦英国大使館覚書

日加公使交換に関する英国政府覚書

大臣会見録(四十三)

昭和三年一月十日午後在京英国大使「サー・ジョン・テイ
レー」氏田中大臣来訪

(一)先ツ英国大使ヨリ本日來訪シタルハ本国政府ヨリノ訓令
ニ依リ日本ニ加奈陀公使ヲ派遣スルノ件ニ関シ帝國政府
ノ意向ヲ承知シ度キ為ナルカ電文ニ拠レハ本件ハ在「オ
タワ」松永総領事ト加奈陀政府トノ間ニ交渉アリタル趣
ナルニ付貴大臣ニ於テモ既ニ御承知ノコトト思考スト述
ヘ「エード・メモワール」ヲ手交セリ
之ニ対シ大臣ハ本件ニ関シ何等正式ニ「オタワ」総領事
ヨリ報告ニ接シ居ラサルニ付今直ニ御返事申上クルコト

(欄外記入)

トアルモ同次官ヨリハ別ニ日本政府ノ意向ヲ承ルヲ得
サリシ旨及今回ノ訓電ハ簡ニシテ大臣ニ対シ詳細ノ説
明ヲ与ヘ得サリシヲ遺憾トスル旨繰返シ居タリ

(二)右要談ノ序ヲ以テ英国大使ヨリ支那問題ニ就テハ海賊鎮
定ニ関シ日英海軍間ニ共同動作ノ合意成立シタル事実以
外何等最近ノ情報ヲ入手セサル旨述ヘタルニ対シ大臣ハ
支那ノ南北兩派ハ戦ニ疲レタルヲ以テ当分ノ間政局ニ大
ナル進展ヲ見サルヘシト想ハルルモ諾威船力莫大ノ銃器
ヲ支那ニ輸入シタル噂ヲ聞ケルカ斯クノ如ク外国ヨリノ
手出シアリテハ支那ノ安定ハ到底之ヲ期待スルヲ得サル
処支那ニ対スル武器輸入取締条約ニハ独露ノ二国加入シ
居ラサルニ依リ諾威船ノ例ノ如キハ支那ノ将来ノ為寒心
ニ耐ヘサルモノアリト説明シ最後ニ日本ハ英国ト異リ支
那ニ於テ一層重大緊切ナル利害ヲ有スルヲ以テ支那ノ擾
乱ニハ頗ル痛心シ居ル次第ナリト結ハレタリ

(昭和二年一月十日山形記)

(欄外記入)

会谈シタルコトナシ飯ニアリトスルモ一場ノ座談位ナリシト
ナルベシ (出淵外務次官サイン)

ヲ得サルモ総領事ヨリノ報告接到次第速ニ回答致スヘシ
ト答ヘラレタリ然ルニ英国大使ハ稍々意外ノ面持チニテ
実ハ本件ハ日本政府ニ於テ篤ト御承知ノコトト存シ領政
府ニ於テハ領議會開会ト共ニ(一月二十六日ト記憶ス)
本件日本政府ノ意向ヲ発表シ度キ模様ナルカ右様ノ次第
ニテハ此上何等御尋ネスルコトヲ得ストテ加奈陀カ既ニ
駐米公使ヲ任命シ居ル旨並同公使ト英国大使トノ事務上
ノ関係極メテ円満ニ進行シ居ル趣ヲ述ヘ大臣ヨリノ質問
ニ対シ加奈陀公使ト英国大使トノ間ノ権限ノ差異及条約
締結ニ関スル加奈陀ノ地位等ヲ説明シ日本政府ニ於テモ
加奈陀公使ヲ接受スルニ於テハ兩國ノ関係益々良好トナ
ルヘシト説明セリ

付記

尚ホ同大使ハ辞去ニ際シ本官(山形)ニ対シ日加間ニ
ハ移民問題ノ外重大ナル問題無ク日本政府ニ於テ本件
公使接受ニ異議アルヘシトモ思ハレストノ趣旨本件公
使任命ノ意向ニ就テハ嘗テ出淵次官トモ会谈シタルコ

(付記)

Confidential:

His Britannic Majesty's Embassy present their com-
pliments to the Japanese Government, and have the
honour to state that they have received a telegram from
His Majesty's Principal Secretary of State for Foreign
Affairs, stating that His Majesty's Government in
Canada are desirous of appointing a Canadian Minister
to Tokyo, and would welcome the appointment of a
Japanese Minister to Ottawa.

The Canadian Government have already discussed the
question fully with Mr. Matsunaga, the former Japanese
Consul-General at Ottawa. They hope that it will be
possible to conclude an immigration agreement on the
lines suggested to Mr. Matsunaga, and they propose to
entrust to the Canadian Minister in Japan the duty of
according visas to Japanese emigrants to Canada in
accordance with such an agreement.

British Embassy,

Tokyo.

January 10th, 1928.

14 昭和3年1月19日

在オタワ富井(周)総領事より
田中外務大臣宛(電報)

日加公使交換につきスケルトン外務次官による
カナダ側希望内話

オタワ 1月19日後発
本省 1月20日後着

第一号

仏国及ヒ加奈陀両国間公使交換取極メ成立ノ公表並ニ右取極メニ関連シ当国外務次官「スケルトン」カ本官トノ会谈ニ於テ日加両国公使交換ノ風説ニ言及シ当国政府ハ目下ノ処公使交換ノ制度ヲ此ノ上拡張スルノ意向ナキ旨述ヘタル次第ハ本月十三日付往信機密第三号ヲ以テ報告シ置キタル処其ノ後十七日同次官ハ本官邸ノ晩餐会ニ於テ「キング」総理大臣ノ命ニ基キ本官ニ伝達スルモノナリト前置シ加奈陀政府ハ日本政府ト近ク公使交換ノ取極メシタキ希望ヲ有シ其ノ趣議會開会当日ノ Speech from the Throne ニ於テ

ニ醸成スヘキ險惡ナル空氣ヲ幾分トモ未然ニ防止シ得ヘシト思ヒ付キタルニ付日本政府ニ対シ出来得レハ二十五日迄ニ公使交換ニ関スル回答ヲ得度旨申入レタル次第ナリト語リ最近ノ実例ヲ挙げ総理大臣カ如何ニ排日運動緩和ニ努メツツアルカヲ詳述シタル後移民問題及公使交換問題ニ関シ迅速円満ノ解決ヲ切望スル旨力説セリ

総理大臣ハ更ニ之ヲ説明シ加奈陀カ日本ニ公使ヲ派遣シタキハ(一)日加両国間ノ密接ナル關係ニ鑑ミ加奈陀政府ノ見解ヲ日本政府ニ充分伝達シ得ル機関ヲ日本ニ設置スル必要有ル事(二)加奈陀ニ渡航スル日本移民旅券ニ対シ将来ハ必ス在本邦加奈陀公使ヲシテ査証セシムル制度ヲ設ケ度事(三)加奈陀今日ノ國際的地位ニ鑑ミ既ニ米大陸及欧州大陸ニ公使館ヲ設置スル以上東洋ニモ公使ヲ送ルハ当然ナル事等ノ理由ニ依ルモノナル事ヲ述ヘ次ニ移民問題ニ言及シ最早當國議會開会目ノ前ニ迫レルニモ拘ハラス同問題未タ解決セサルハ遺憾ナリ議會開会サルレハ保守党ノ新首領「ベネット」ハ曩ニ同党大会ヲ通過セル排日決議(往電第二六号)ニ鑑ミ恐ラク移民問題ニ関シ峻烈ナル質問ヲ提出スヘク其ノ際政府ハ従来通り単ニ本件ハ未タ交渉中ノ趣答弁シテ其ノ場

声明シタク目下本国政府ト交渉中ノ趣語レルニ付本官ハ十八日総理大臣ニ面会シ本件真相ヲ質シタル処総理大臣ハ十七日閣議ニ於テ説明セル關係書類ヲ取寄セ之ヲ一々朗読セリ右ニ依レハ當國政府ハ客年十一月二十二日より數回ニ亘リ英國政府ニ対シ日加両国間ニ公使交換ノ取極メヲ結ヒ度ク又若シ日本政府ノ事情ニ依リ右取極メ成立困難ナル時ハ同政府ニ於テ一方的ニ加奈陀ノ公使派遣ヲ承諾スル様諒解ヲ得タキ旨ヲ述ヘ若シ本国政府カ之ニ異存ナクハ同政府ヨリ日本政府ニ対シ其ノ内意ヲ問合セラレ度キ旨且右加奈陀政府申出ニ対シ主義上ニテモ日本ノ同意ヲ得ハ早速其ノ趣議會開会当日(一月二十六日) Speech from the Throne 中ニ於テ声明シタキニ付出来得レハ二十五日迄ニ日本政府ノ回答ニ接シ得ル様尽力方移民問題ノ円満迅速ナル解決斡旋方ト併セ依頼シタルニ対シ英國政府ハ當國政府ノ意ヲ汲ミ右既ニ在本邦英國大使ヲ通シ日本政府ニ申入レタル趣ナリ

若シ議會開会劈頭 Speech from the Throne ニ於テ加奈陀ノ國際的地位向上ニ伴ヒ今回仏加及日加間ニ各々公使交換ノ諒解成立シタル旨声明シ得レハ移民問題ニ関シ近ク議會ヲ糊塗スル能ハス且B・C州議員ニ依リ排日法案提出サレ同法案カ保守党全員並ニ与党排日議員ノ賛成ヲ得ル事想像ニ難カラス此ノ場合政府ハ勝敗不確実ナル此ノ問題ニ内閣ノ運命ヲ賭シテ迄之ヲ争フノ意無キカ故ニ自ラ同法案ニ賛成セサルヘカラサル羽目ニ至ルヘシ

尚總理大臣ハ本官ノ質問ニ対シ若シ公使交換ノ諒解近ク成立セハ加奈陀政府ハ今期議會ニ右予算案ヲ提出スルノ用意アリ且同案ニ対シテハ曩ニ在米公使館設立ニ関スル予算案提出ノ際少數議員ヨリ反対アリタルト同シク加奈陀ノ英帝国内ニ於ケル地位ノ變遷ヲ度外視スル頑迷ノ一部議員ヨリ反対アルヘキモ大多數ノ賛成ヲ得ル事容易ナリト語レリ右ニ対シ本官ハ貴電第一号ノ趣ヲ敷衍シ移民問題ニ関スル日本ノ対案遅延ノ理由ヲ説明スルト同時ニ本件ニ関シ總理大臣ノ尽力ヲ謝シ右委細日本ヘ報告スヘシト答ヘ置キタリ尚「スケルトン」次官ハ十九日本官ニ対シ前顯拙信記載ノ会见ニ於テ加奈陀ハ目下ノ処米國、仏國及ヒ日本ノ三国以外ノ國ト公使交換ノ意ナキ旨ヲ云ハントシタルモノナルカ其ノ言不充分ニシテ良ク意ヲ尽ササリシハ甚タ遺憾ナリト述ヘタリ

英へ転電シ米、仏、「シドニー」へ暗送セリ

15 昭和3年1月19日

在オタワ富井総領事より
田中外務大臣宛（電報）

移民問題による反日感情緩和のため公使交換
早期実現につき意見具申

オタワ 1月19日後発

本省 1月20日後着

第二号

往電第一号ニ関シ

一、移民問題ニ関スル我方対案提出遅延ノ事情ハ貴電第一号ヲ以テ充分諒察シ居ルモ此上右更ニ遅延スル時ハ当国政府ヲ著シク苦境ニ陥レ遂ニハ我方ノ誠意ヲモ疑ハシムル虞アルノミナラス同電御申越ノ事情ヲ以テ排日法案ノ提出通過ヲ到底防止シ得サルヘシ而シテ当国政府ハ本件交渉開始以来終始一貫日本ニ対スル好意ヲ表示シ「キング」首相ハ今猶同問題ノ円満迅速ナル解決ニ苦心シツツアルヲ以テ若シ交渉頓挫シ排日法制定セラルルニ至ラハ交渉頓挫ノ責ハ自ラ我政府之ヲ負担セサルヘカラサル苦

題ニ関シ醸成セラルヘキ議會ノ險惡ナル空氣ヲ防止スルニ多少ノ効果アルヘシト愚考ス
在英大使ニ転電セリ

16 昭和3年1月19日

田中外務大臣
在本邦テイリ―英国大使 会談

日加公使交換同意の旨田中外相回答

付記 日付不明

日加公使交換に対する通商局第三課の所見

大臣会见録（四十五）

一月十八日夜大臣官邸ニ於ケル外交団招待晩餐後大臣ハ英国大使ヲ傍ニ招キ

過日加奈陀トノ使節交換ノ御話アリタルカ我方ニ於テハ若シ加奈陀ニ於テ希望スルニ於テハ其ノ差遣セントスル公使ヲ御受ケスヘク亦我方ヨリモ代表者ヲ送ルコトスヘシト陳ヘラレタルニ

英国大使ハ右ハ之ヲ其儘本国政府ニ伝達シ差支ナキヤ將又加奈陀ニ於テハ一月二十六日議會開会式ニ於テ之ヲ発表シ得レハ甚タ好都合トスヘシト存スル処右日本政府ノ意向ヲ

境ニ陥リ抗議提出ノ理由ヲ著シク薄弱ナラシムルノミナラス幾回抗議ヲ繰返スモ結局我方目的ヲ達シ得サルハ往年米國ニ於ケル日本移民排斥法制定當時ノ実例ニ見ルモ明カナリ事一度茲ニ至ラハ本件ノ円満ナル解決ニ費セル帝國數年ノ努力ハ一朝ニシテ水泡ニ帰シ民心ヲ激昂セシメテ日加親善關係延テハ日英友好關係ノ維持ニ一大支障ヲ来スヘキハ明白ナリ此辺ノ事情帝國政府ニ於テモ充分御洞察ノ事ト信スルモ形勢ハ刻々惡化セムトシツツアルニ付一日モ速ク対案提出ノ運ニ至ラム事切望シテ已マス

二、公使交換ニ関スル加奈陀政府ノ申出ハ英帝國內ニ於ケル同國地位ノ向上ニ伴ヒ必然ノ要求ニシテ英本国政府ニ於テモ之ニ賛意ヲ表示セル以上我國ニ於テ之ヲ快諾セサル理由ニ乏シカルヘク公使交換ハ日加兩國ノ貿易關係、移民關係、在留民關係等ヨリ觀ルモ当然ナルノミナラス当地ニ於テ既ニ米國公使駐劄シ又近クハ仏國公使ノ任命セラレムトスル今日帝國ノ体面ヲ充分維持セムトセハ公使ヲ駐劄セシムル事至当ナルヘク尚公使交換又ハ加奈陀公使本邦駐劄ニ関スル帝國政府ノ承諾ヲ當國議會開会劈頭声明セシムルハ「キング」首相ノ説明セル通り移民間

「アナウンス」セシメ差支ナキヤヲ尋ネ

大臣ハ右何レモ差支ナキ旨ヲ答ヘラレタリ

尚英國大使ヨリ「ワシントン」ニ於テハ英國大使ト加奈陀公使トノ二機関アリテ而カモ頗ル円満ニ運用セラレツツアル旨ヲ語リタルニ

大臣ハ自分モ其趣聞キ及ヒ居レルカ誠ニ結構ナリト答ヘラレ更ニ大使ノ今回ノ歸國出發ノ時機ヲ尋ネラレタル後尚御話申上度コトモアリ御出發迄ニハ自分ヨリ大使館ノ方ヘ御訪ネ申スヘシト述レラレタリ

（昭和三年一月十九日、澤田電信課長口述）

（付記）

加奈陀ト本邦間公使交換ニ対スル通商三課ノ意見
加奈陀在留ノ本邦人ハ目下約二万ヲ數ヘ年々若干ノ増加ヲ示シツツアリ其ノ職業ハ農業及漁業ヲ主トシ農業ニ対スル其ノ投資額百七十七万弗年収獲百万弗ヲ超エ漁業ニ対スル投資百六、七十万弗年収勞銀ヲ加ヘ三百万弗ニ及ヒ海外在留者ノ數並ニ其ノ經濟の實力ノ点ヨリ見レハ支那、北米合衆國、「ブラジル」ニ次テ重要ナル地域ナリ然ルニ明治四

十年ノ所謂「ルミュー」協約以来移民制限及B・C州ニ於ケル邦人漁業鑑札数制限問題等ニ付屢々紛議ヲ生シ移民制限問題ニ付テハ現ニ両政府間ニ交渉中ナリ仍テ当課所管事項処理上ヨリ見テ加奈陀政府ト公使ヲ交換シ同政府ヲ専ラ代表スル使節カ東京ニ常駐スルコトハ至極望マシキ儀ト思考ス

17 昭和3年2月1日 田中外交大臣より
在本邦ドーマー英国代理大使宛

日加公使交換に同意する旨の日本側回答

付 記 昭和三年一月二十七日付在本邦英国大使より田中外交大臣宛書
日加公使交換に関するカナダ側申し入れ
欧二普通第一五号
昭和三年二月一日

外務大臣男爵 田中 義一
在本邦英国臨時代理大使殿
(欄外記入)
以書翰啓上致候陳者一月二十七日付第一二号書翰ヲ以テ加奈陀政府ニ於テハ加奈陀ト帝國トノ間ノ公使交換ニ関スル

帝國政府ノ決定ヲ欣快トセラルル旨帝國政府ニ通達方ノ訓電ニ接セラレタル趣並加奈陀政府ニ於テハ右帝國政府ノ決定ニ依リ一月二十六日加奈陀議會ノ開会ニ際シ本件ノ發表ヲ行ハレタル趣御通報相成リ敬承致候加奈陀及帝國間ノ公使交換ハ帝國政府ニ於テモ寔ニ欣快トスル段ニ有之候条右加奈陀政府ニ伝達方御配慮相煩度此段申進旁々本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候

(欄外記入)

His Majesty's Government in Canadaノ訳語ハ条約文等極ク正式ノ場合ノ外「加奈陀政府」トスル事ト致度

(付 記)

British Embassy,
Tokyo.
January 27, 1928.

Your Excellency,
I have the honour to inform Your Excellency that I have just received a telegram from my Government instructing me to communicate to the Imperial Govern-

ment the gratification of His Majesty's Government in Canada at the decision of the Imperial Government to receive a Canadian Minister at Tokyo and to send a Japanese Minister to Ottawa.

It was with great pleasure that the Canadian Government learnt this decision and an announcement was accordingly made at the opening of the Canadian Parliament yesterday.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

John Tilley (Sign)
His Excellency
Baron Gichi Tanaka,
H.I.J.M. Minister for Foreign Affairs.

18 昭和3年2月2日 在オタワ富井総領事より
田中外交大臣宛(電報)

カナダ下院における日加公使交換問題に関する
討議状況

オタワ 2月2日後発
本省 2月3日前着

第七号
往電第五号ニ関シ
日加公使交換ハ King's Speech 中ノ biggest news トシテ之ニ関スル東京電報ト併セ広ク当地新聞ニ目立チタル形ニテ掲載セラレ「二三新聞ハ其社説ニ於テ日加公使交換ハ加奈陀現政府ノ status quo ニ基クモノナリ加奈陀ハ之カ為近ク日本ニ対スルト同シク他國トモ公使ヲ交換セサルヘカラサル事トナリ遂ニハ自ラ英帝國內ニ於ケル同國ノ地位ヲ危殆ナラシムルニ至ルヘント論シタルモノモアリ当國國民ニ依リ驚ヲ以テ迎ヘラレタルノ感アル処一月三十日保守党首領ハ下院ニ於ケル King's Speech ノ討論中日加公使交換問題ニ言及シ英帝國內ニ於ケル加奈陀今日ノ地位ニ照シ其地位ヲ会得セル米仏トノ公使交換ハ理解シ得ルモ右地位ヲ熟知セサル日本其他ノ諸國ト公使ヲ交換スルニ至ラハ英帝國內ニ於ケル加奈陀ノ地位ニ誤解ヲ生シ其結果同國ヲ危殆ナラシムルニ至ルヘク是等諸國ニ対シテハ目下ノ所貿易事務官ヲ設置スレハ充分ナリト述ヘタリ之ニ対シ「キン

「グ」首相ハ翌日其答弁ニ於テ貿易事務官ノ設置勿論必要ナルモ外国政府ト交渉ノ権限アル外交使節ノ派遣亦必要ニシテ加奈陀今日ノ地位ニ照シ米欧及亜ノ三大陸ニ一名宛外交使節ヲ駐割セシムルモ敢テ不穩当ニ非サルヘシ若シ夫レ日本トノ公使交換ニ至リテハ同国トノ密接ナル貿易関係力之ヲ正当ナラシムルノミナラス他ノ方面ヨリ觀ルモ至当ナリト述ヘ首相ハ白人加奈陀主義ヲ擁護スル点ニ於テ人後ニ落チス日本移民ノ増加ニ関シテハ之カ制限ノ必要ヲ認メ居ルモ通商上將來益々関係深カルヘキ日本国民ノ感情ヲ害スルカ如キ方法ニ依リ制限スルヲ欲セスト述ヘ曩ニ保守党大会ニ於テ通過セル排日決議ニ反対ノ意ヲ表シタル後英本国ハ既ニ支那及印度ノ現状日ニ苦シミツツアリ若シ更ニ加奈陀カ日本ノ感情ヲ毀損スルカ如キ事アラハ如何ナル結果ヲ生スルヤハ図リ知レスト論シ公使交換力是等ノ諸問題ト関連セル事ヲ暗示セリ

英ニ郵送セリ

19 昭和3年2月27日

在オタワ富井総領事より
田中外務大臣宛

国家タルコトヲ示スカ為ニ多額ノ支出ヲ為スヨリモ先ツ真ニ実力アル国家タル為メニ必要ナル施設ヲ為ササルヘカラス(二)若シ自治領カ各自外国ニ公使ヲ派遣スルコトナラハ甚タシキ事態ノ紛糾ヲ来シ英帝国ノ連鎖ヲ薄弱ナラシム可シ抑々貿易ト外交トハ嚴ニ區別セサルヘカラス貿易ニ関シテハ各自治領ハ相競ツテ之カ増進ヲ計ラサルヘカラサルヲ以テ各自外国ニ貿易事務官ヲ派遣シ差支ナキモ外交ニ関シテハ英帝国ハ相團結シ一ノ單位トシテ行動セサルヘカラサルカ故ニ各自治領カ外交代表者ヲ派遣スルハ面白カラスト言フニ在リ之ニ対シ自由党側「ソーソン」(L. T. Thorson)「ガスグレン」(Pierre F. Gasgrain)「ヤング」(A. M. Young)等ノ所論ハ対日貿易ハ加奈陀ノ貿易上甚タ重要ナル地位ヲ占メ居リ尚將來之カ發展ノ見込頗ル大ナルモノアリ更ニ加奈陀ハ太平洋問題ニ緊密ノ利害関係ヲ有スル点ヨリ言フモ又國際連盟ノ理事国タル点ヨリ觀ルモ世界ヨリ孤立スル能ハス加奈陀ハ其地理的關係ヨリシテ単ニ二大英語國民ノ楔タルニ止マラス進テ欧亜兩大陸ノ平和並親善關係ノ仲介者タラサルヘカラス之カ故ニ駐日公使ノ派遣ハ極メ必要ナリト言フニ在リ尚「アルバータ」州農

カナダ下院における日加公使交換問題に関する 討議続報

公第二一〇号

(3月27日接受)

昭和三年二月二十七日

在オタワ

総領事 富井 周(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

日加公使交換問題ニ関スル件

当領議會下院ニ於ケル「キングス・スピーチ」ノ討論ニ於テ「キング」首相及保守党首領「ベネット」間ニ駐日公使派遣問題ニ関シ論争アリタル次第ハ曩ニ往電第七号ヲ以テ不取敢報告致シ置キタルカ其後更ニ下院議員ヨリ同問題ニ関シ演説アリ其論旨多クハ「キング」首相及「ベネット」ノ所論外ニ出テサリシ処討論ハ本月九日終了セリ先ツ保守側「チャーチ」(T. L. Church)「バーレー」(Sir George Perley)「ブラディ」(L. C. Brady)「カントラー」(Thomas Cantley)等ノ論旨ヲ総合スルニ(一)公使ヲ華府ニ派遣シタル結果ハ只經費ノ増額ヲ費シタル外何等得ル所ナカリキ加奈陀ハ実力ノ伴ハサル單ナル名儀上ノ

民連合所屬議員「ガーランド」(E. I. Garland)ハ加奈陀ノ將來ハ東洋ニ対スル貿易ト親善關係ノ増進ニ待ツ所甚タ大ナルニ鑑ミ日本ニ対スル公使ノ派遣ハ特ニ必要ナリ余ハ若シ日本政府ニシテ本院ノ相当多數カ駐日公使ノ派遣ニ反対セルヲ聞カハ加奈陀トノ公使交換ヲ受諾スルコトヲ躊躇スルニ至ルナキヤヲ懸念ストノ趣旨ヲ述ヘタルカ同連合會所屬「ケネデー」(D. M. Kennedy)ハ賛否何レトモ付カサル曖昧ナル態度ヲ示シタリ其他進歩党所屬「ジェリフ」(L. H. Gellif)及中立議員「ボーラッサ」(Henri Bourassa)ハ公使交換ニ賛成ノ意ヲ述ヘ又労働党所屬「コープス」(A. A. Heaps)ハ之ニ反対ノ意ヲ仄カセリ右報告ス

20 昭和3年6月13日

在オタワ富井総領事より
田中外務大臣宛(電報)

対日公使派遣に関するカナダ議會の承認

オタワ

発

本省 6月13日前着

第五四号

往電第五一号ニ関シ

保守党ハ十一日下院ニ於テ本件予算案ヲ第三読会ニ付セス
全院委員会ニ付託スルト同時ニ同委員会ニ原案五万弗ヲ一
千弗ニ削減セシムル権限ヲ付与スル修正案ヲ提出シタルカ
右否決セラレ同予算案ハ原案ノ儘両院ヲ通過シ同日裁可ヲ
経タリ

右修正案討議ニ於ケル(一)首相(二)「ベネット」ノ演説要旨左
ノ通

(一)公使派遣ハ英帝国ノ各構成部分カ内政上外政上均等ノ地
位ニ有リトセル帝国會議ノ決議ヲ実行シタルニ過キス抑
英帝国ノ安定ヲ維持セントセハ其ノ外交ヲ「ジョイン
ト・コントロール」ニ委セサルヘカラス今日帝国ノ外交
ヲ「インペリアル・パリアメント」又ハ「インペリア
ル・カウンシル」等ノ機關ニ依リ「セントラライズド・
シングル・コントロール」ノ下ニ置クヘシト主張スル者
恐ラク非サルヘシ而シテ右「ジョイント・コントロール」
ハ既ニ「ベルサイユ」會議、連盟會議等ニ於テ其ノ実績
ヲ挙げタリ日加貿易最近ノ発達ニ見ルモ將又加奈陀ニ特
ニ利害關係アル移民問題等アル点ヨリ見ルモ世界ノ一強

参考 日付不明

カナダ駐劄公使派遣の意義について

外務省告示第七十一号

加奈陀ニ帝国公使館ヲ設置シ昭和三年七月二十日開館セリ

昭和三年七月二十一日

外務大臣男爵 田中 義一

(参考)

本邦ト加奈陀トノ關係ハ明治二十二年晚香坡ニ帝国領事ヲ
任命シタルニ始マリ其後帝国政府ハ明治三十五年ニ至リ
「モントリオール」ニ総領事館ヲ設置シ同三十七年之ヲ
「オタワ」ニ移シタルカ爾來加奈陀政府トノ交渉ハ同地駐
在ノ帝国総領事之ヲ管掌シ來レリ

現在加奈陀ニハ本邦人約二万人在留シ其投資額ハ約三百五
十萬弗ニ上リ農業收穫ハ年百五十萬弗余、漁業年収ハ勞銀
ヲ加ヘ三萬萬弗ニ達スルヲ以テ同國ハ邦人海外發展上兩米
中ニ於テ北米合衆國、伯刺西爾ニ次ク重要地域タリト言フ
ヘシ加之彼我兩國間ノ貿易ハ逐年隆盛ニ向ヒ一九二六年ニ

國タル日本ニ加奈陀政府ノ見解ヲ充分表示シ得ル代表者
ヲ派遣スルコト必要ナリ尚本件ニ就テハ英本國政府ノ了
解アリ又日本議會ハ既ニ在加奈陀日本公使館新設費予算
ヲ通過セシメタリ

(二)加奈陀ハ内政上及外政上完全ナル主權國、獨立國ニ非サ
ルヲ以テ英本國ト均等ノ地位ニアルノ理ナシ加奈陀カ公
使ヲ派遣スルニ於テハ他ノ自治領モ之ニ倣フニ至ルヘク
然ル時ハ一國ニ英帝國ノ構成部分ヲ各代表スル大公使駐
在スルコトナルヘシ而シテ其ノ間ニ屢々意見ノ一致ヲ
欠クコトアルヘキハ最近ノ事實之ヲ証明ス加フルニ公使
派遣ノ結果英帝國ニ於ケル加奈陀ノ地位ニ關シ同國カ恰
モ完全ナル獨立國ナルヤノ觀ヲ外國ニ与フル俱アル処事
実同國ハ國際間ノ危機ニ際シ自國人ヲ保護スヘキ陸海軍
スラナシ公使派遣ハ實力ニ伴ハサル虚飾ト云ハサルヘカ
ラス

21 昭和3年7月21日 外務省告示

在カナダ日本公使館の開設告示

ハ輸出入總額約九千万円ニ達シ加奈陀ノ外國貿易國別順位
ニ於テ本邦ハ輸入ニ於テハ未タ第六位ヲ占ムルニ過キサル
モ輸出ニ付テハ第三位ニ位ス

茲ニ於テ兩國ノ親善、在留邦人ノ利益擁護増進及貿易ノ促
進ヲ計ルト共ニ英米兩國ニ對スル帝國ノ外交政策ノ樹立ニ
資センカ為加奈陀ト公使ヲ交換スルノ須要ナルコトヲ認メ
過般加奈陀政府ヨリ希望シ來タリタルヲ機トシ之ヲ応諾ス
ルコトニ閣議ノ決定ヲ見タル次第ナリ(別紙ノ通)就テハ
此機會ニ於テ速ニ本邦ヨリ加奈陀駐劄公使ノ派遣ヲ実行シ
以テ同政府ノ我方ニ對スル好意的態度ニ報ヒ日加間ノ親善
關係ヲ確立スルコト喫緊ナリト認ム

22 昭和4年5月25日 田中外務大臣 田中 義一 會談
在本邦テイリー英國大使

カナダ代理公使の本邦着任通報および紹介の
ため在本邦英國大使來訪

大臣會見録(九十五)
五月二十五日午前十時英國大使「サー・ジョン・テイリー」
加奈陀代理公使「キーンリーサイド」氏ヲ同伴田中大臣ヲ

来訪シ今週月曜日到着シ代理公使トシテ加奈陀公使館ヲ開設シタル「キーンリーサイド」氏御紹介ノ為来訪シタル旨ヲ述ヘタルニ

大臣ハ「キ」氏ニ対シ加奈陀公使館カ初メテ我国ニ開設セラレ茲ニ貴下ヲ最初ノ代表者トシテ迎ヘルコトハ誠ニ喜ヒニ堪ヘスト述ヘラレ

代理公使ハ加奈陀首相其ノ他ノ加奈陀政府要路ノ人々ヨリモ我公使館開設ニ当リ閣下ニ日加両国将来ノ為満腔ノ祝意ヲ表スヘキコトヲ自分ニ命シタリ尚ホ又日本政府ヨリ其ノ最初ノ公使トシテ最モ適任ナル人ヲ選ヒ呉レラレシコトニ対シテモ加奈陀官民拳ツテ之ヲ喜ヒ居レリト述ヘ

之ニ対シ大臣ハ御言葉誠ニ有難シ徳川君モ「グラウスタ」公接伴ノ役目モ終リタルニ依リ遠カラス出発赴任スルコトト期待シ居レリト答ヘラレ

代理公使ハ加奈陀側ノ公使「マラー」氏ハ只今ノ所大体九月上旬ニハ着任スル予定ナルヲ以テ恐ラク徳川公使御赴任ノ頃両国時ヲ同ウシテ公使ヲ交換シ得ルコトト期待シ居レリト述ヘタリ

(欄外記入)

最後ニ大臣ハ万事ハ英吉利大使ニ於テ御世話ナサルコトト

Shibuyamachi, Tokyo, and that all communications sent to that address will receive the most careful and immediate attention.

With renewed assurances of my highest consideration,

I have the honour to be,

Monsieur,

Your obedient servant,

Hugh L. Keenleyside (Sign)

Charged' Affaires.

M. Shigeru Yoshida,

Vice-Minister for Foreign Affairs,

Imperial Japanese Government,

Tokyo, Japan.

(付記)

本省 5月30日後発

第二六号

貴電第二三三号ニ関シ

「キーンリーサイド」ヨリ二十一日付書面ヲ以テ同氏在本

考ヘルモ公務上ニ於テ御用アル時ハ何時ニテモ御来訪アリ度シト述ヘラレ代理公使ハ御言葉有難シト述ヘテ引取りタリ (昭和四年五月二十五日 澤田電信課長口述)

(欄外記入)

未ダ「アグレマン」ノ申出ナシ

昭和四年五月二十九日

(堀田正昭欧米局長花押)

23 昭和4年5月29日

在本邦キーンリーサイド カナダ代理公使より
吉田(茂)外務次官宛

在京カナダ公使館開設の旨通報

付記

昭和四年五月三〇日付田中外務大臣より在カナダ岩手(嘉雄)臨時代理公使宛電報第二六号
在京カナダ公使館開設了承の旨カナダへ通報

Tokyo, 29th May, 1929.

Monsieur:

I have the honour to inform you that the Canadian Legation has now been established in temporary quarters at No.5, Nagai Compound, 11 Konno

邦「カナダ」公使館一等書記官ニ任セラレ公使来任迄館務ヲ執ルヘキ旨申越シタルニ付同日ヲ以テ公使館ヲ開設シタルモノト見做シ右書面ヲ諒承シ置タリ依テ貴官ハコノ機会ニ於テ「カナダ」政府ニ対シ帝國政府ハ同氏ノ来任ヲ欣然受諾シ日「カ」両国ノ間ニ外交代表ノ交換成立シタルコトヲ衷心慶賀スルト共ニ将来両国ノ親善関係ノ愈々緊密ナラムコトヲ切望スル旨申入レラレ度

24 昭和4年6月10日

在本邦テイリー英国大使より
田中外務大臣宛

在本邦英国大使と在本邦カナダ公使との役割

分担について

British Embassy,

Tokyo.

June 10th, 1929.

Your Excellency,

At the instance of His Majesty's Government in Canada and under instructions from His Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs I have

the honour to inform you that His Majesty's Government in Canada have come to the conclusion that it is desirable that the handling of matters at Tokyo relating to Canada should be confided to an Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary accredited to His Imperial Majesty the Emperor.

2. Such Minister would be accredited by His Majesty the King to His Imperial Majesty the Emperor, and he would be furnished with credentials which would enable him to take charge of all affairs relating to Canada. He would be the ordinary channel for communication to the Japanese Government on these matters. The arrangement proposed would not denote any departure from the principles of the diplomatic unity of the Empire, that is to say, the principle of consultation and cooperation amongst His Majesty's Representatives as amongst His Majesty's Governments themselves in matters of common concern. The methods of dealing

with matters which may arise concerning more than one of His Majesty's Governments would therefore be settled by consultation between representatives of His Majesty's Governments concerned.

3. In proposing to establish a Canadian legation His Majesty's Government in Canada trust that it will promote the maintenance and development of cordial relations not only between Japan and Canada, but also between Japan and the whole of the British Commonwealth of Nations.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

John Tilley (Sign)

Excellency,

Baron Giichi Tanaka,

H. I. J. M. Minister for Foreign Affairs.

二 移民問題

1 移民政策一般

一般

25 昭和2年10月20日

田中外務大臣
在本邦フエイトーザ
ブラジル大使 会談

移民送出をめぐる日本側諸問題につき田中外相

と駐日ブラジル大使との会談要領

田中外務大臣ト在京伯国大使トノ会談要領

昭和二年十月二十日午後三時ヨリ約一時間田中外務大臣ハ省内外大臣室ニ於テ伯国大使ヲ引見セラル会談要領左ノ如シ
同席ノ田付大使通訳ノ勞ヲ取ラル

大臣 今日ハ日本ノ移民ノコトニ付キ御話シヲシタシ現在
貴国ニハ約五万五千ノ日本移民カ御世話トナリ貴国ノ
手アツキ保護ヲ受ケテ生活ヲ楽シミツツアリ此点ハ先
ツ貴国ニ対シテ御礼ヲ申サネハナラヌ事ナリ日本ノ移
民ト云フコトニツキテ外部ニ於テ誤解アリ夫レハ日本

政府ハ年々幾十万ト増加スル人口問題ヲ移民ニヨリテ
解決セントスルモノナリト云フモノナルカ我々ハ日本
ノ人口問題ヲ移民ニヨリテ解決スルカ如キ考ハ持チ居
ラサルニ付外部ノ風説ニヨリ誤解セラレサランコトヲ
希望ス

大使 予ハ日本ノ人口カ如何ニ増加シツツアルヤヲ承知セ
サルモ其増加スル人口ノ問題ヲ移民ニヨリテ解決スル
コトハ不可能ナルヘシト同感ニ存ス移民ニヨリテ人口
問題ヲ解決セントセハ年々百万人モ移民ヲナスコトヲ
要スヘク之ハ不可能ナルヘシ

大臣 日本ハ日本移民カ歡迎サレ日本移民カ幸福ヲ受ケ又
其国モ日本移民ニ依リ生産物カ殖エテ利益ヲ受クルト
云フ場合ニ移民ヲ送ルモノニシテ移民ニヨリテ相手国
ニ迷惑ヲカケサル考ナリ從テ移民ノ質モ充分撰択シテ
好キ者ヲノミ送ルコトトナシ居ルニ付此点ハ御安心ヲ